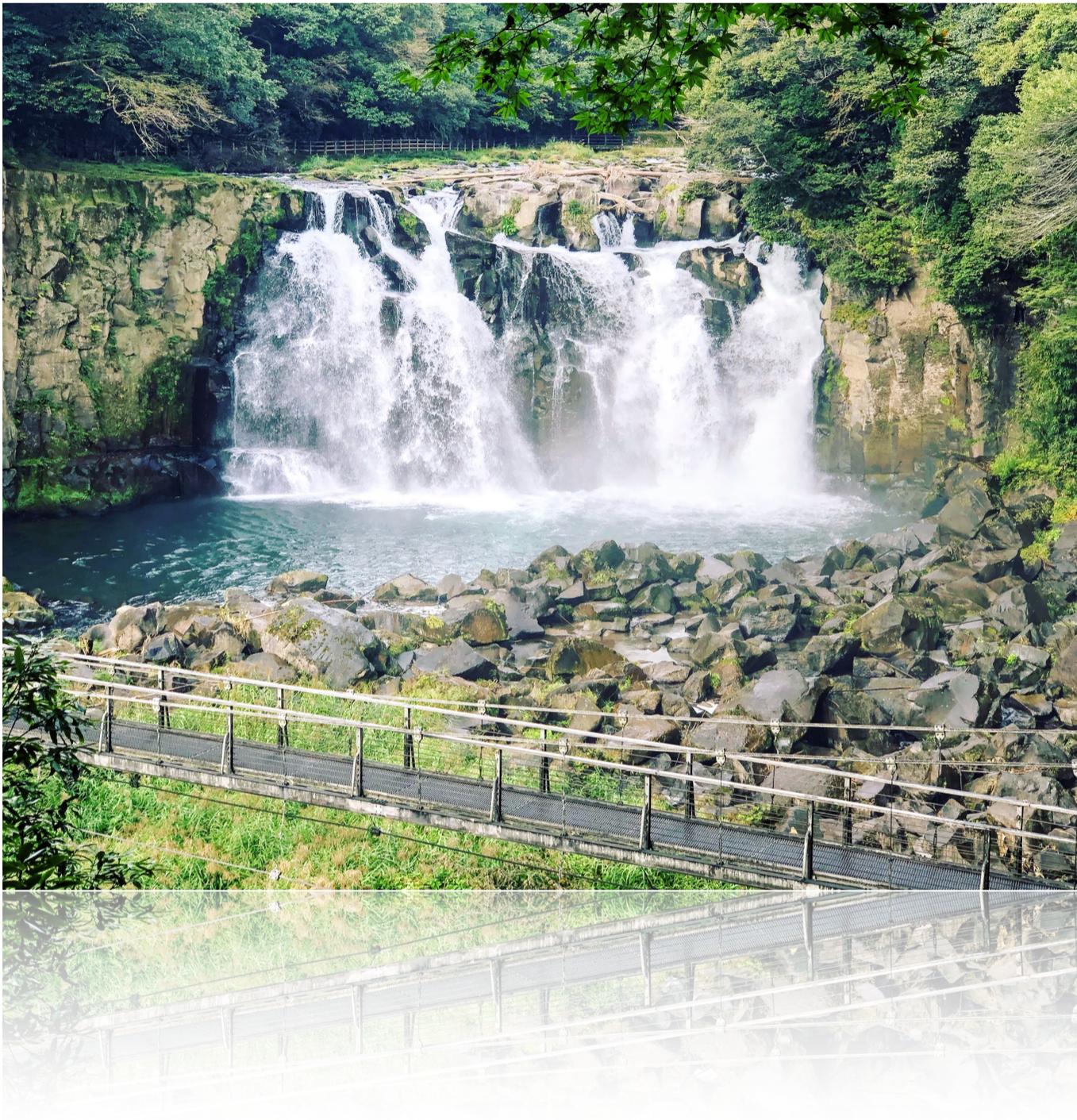


12

2019

図書館だより



都城市 関之尾滝

特集

こんな本と出会った。

独立法人 国立高等専門学校機構
都城工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

文学のなかの郷土

図書館長 笹谷 浩一郎

昨年度の「図書館だより」でも触れたのですが、私はかつて、ある文学研究者の手伝いで、宮崎県を舞台にした文学作品、文学者について調査、資料集めをしたことがあります。多くの文学者が、それぞれの視点で宮崎の風土をとらえ、作品に登場させているのですが、そのなかで印象的だったものをいくつかご紹介させていただきます。以下は、高橋新吉の「みやざき」という詩の一節です。この作品は、大正15年に出版された「祇園祭」という詩集に収められています。

宮崎は切手の飛んであるようなところ。(中略)
娘さんも
のうさん
大淀川で歯を洗つて
玄関脇の雲を裾さばき
電流に笑はれないように
乗り合自動車が
警笛を鳴らして走ります

高橋新吉はダダイスト詩人として有名です。

ダダイズムとは、既成の権威、道徳、習俗、芸術形式を一切否定し、自発性と偶然性を尊重する芸術運動のことですが、ダダイスト高橋新吉が見た大正時代末期の宮崎の雰囲気や彼独特の視点でとらえた非常に面白い作品だと思えます。

皆さんは「切手の飛んであるようなところ」って、どんなところだと想像しますか。解釈は人それぞれだと思いますが、私は宮崎特有の明るい陽射しと、心地よい風をイメージしました。「娘さんものうさん」というのは、「よだきい、のさん」という方言のことでしょうか。当時の大淀川の水は歯磨きができるほどきれいだったのでしょうか。宮崎の美しさ、のんびりした暮らしぶりをユーモラスに描いている点が印象に残りました。

以下は、都城市出身の詩人、富松良夫の「秋と霧島」という作品です。私たちにとっても身近な霧島を彼はどのような思いで見えていたのでしょうか。

風に洗われるので
山も痩せてきた
おまえも旅人、わたしも旅人
空にいんえいのない深い時がきた
その胸のうちには冷たい水
口にふくむのはわたしひとり
岩壁をななめに削り
掘っても掘っても炎にはとどかぬ
ここは山のもろ膝だ
もうすこしわけいってみよう
しきょくの世界のおそろしさ
純血精のように紅葉の谷
風におそわれるので
山も痩せてきた
ただごとでないその痩せかた
だれかのきょうの似すがただ おまえも旅人、わたしも旅人
さっさと何を急ごう
山膚をなで
山の根をさすり
わが胸の底の炎は消されはせぬ

6歳の時に脊髄の病気にかかったことが原因で不治の病体となり、その翌年に母親を病気で亡くした富松は、叔母に背負われて小学校に通ったそうで、自分で自由に歩き回ったり移動したりはできなかったようです。そんな彼にとって、「痩せてきた山」は彼自身の姿を投影したものと考えられ、彼の孤独を象徴するような冷徹な表現が目立ちますが、その一方で故郷の山に対する畏怖や愛着、自分に課せられた運命と正面から向きあう覚悟を感じさせる力を持った作品だと思えます。他にも宮崎を舞台にした作品で、比較的入手しやすいものをいくつか紹介しておきます。松本清張「西郷札」。西郷札とは、西南戦争の際、西郷隆盛率いる薩摩軍が宮崎で印刷、発行した軍票(通貨の代用品)で、西郷札に翻弄される佐土原藩の人々の悲哀を描いた作品です。後に大ベストセラー作家となる松本清張の出世作と言われています。川端康成「たまゆら」。「雪国」でノーベル文学賞を受賞した川端康成の作品です。未完の作品ですが、NHKでドラマ化され、宮崎が新婚旅行先として人気を得るきっかけになった作品として知られています。当時の宮崎の街の様子が描かれている他、イザナギ、イザナミに代表される日向神話もモチーフとして登場します。他にも宮崎を舞台にした作品が多数あります。機会があれば、また紹介させていただきます。皆さんが知っている作品で、宮崎を舞台にしたものがありましたら、ぜひ私にも教えてください。

每有会意 便欣然忘食

一般科目（文科） 関 幹雄

このたび、一般科目に着任した関幹雄です。担当は国語科ですので、本来であれば読書愛を披露すべきところですが、とても紙幅におさまりません。ひよっとすると自己紹介のみで終わってしまうかもしれません。

18歳の頃の私は何を思ったか、大学の文学部への進学を決めていました。どちらかといえば理系科目を好み、とりわけ文学少年というわけでもありませんでしたが、気がつくやうに文学部に足を踏み入れていました。入学後、学生は様々なコースに別れて学ぶのですが、そこでも、よりもよって哲学コースを選んでしまいました。古典を読むのは好き、哲学なぞ何を言っているかよく分からない、という自覚があつての選択ですから、その頃から既に変わり者だったのでしょうか。すっきりと整理できるものより、分からないものに学問的魅力を感じたのかもしれない。さらに何を思ったのか、大学院へも進みます。そこでは自分の研究に必要な文献を読むので精一杯です。そのような「戦略的な読書」の積み重ねで大学院を出ることはできましたが、専門性の深化に反比例して、心の豊かさが失われていきました。今になって、自分の人間としての浅さと、教養のなさを痛感して後悔ばかりしています。「私には、誇るべき何もない。学問もない。才能もない。肉体汚れて、心も貧しい。けれども、苦悩だけは、その青年たちに、先生、と言われて、黙ってそれを受けていくくらいの、苦悩は、経てきた。たったそれだけ」（太宰治『富嶽百景』）とあるように、私は先生という呼称にたえうる人間性を有しているのか、何と浅い人間なのだろう、と苦悩する毎日です。

後悔先に立たずと言いますが、もし過去の自分に会えるとすれば、肩の力を抜いて気軽に読書するよう勧めます。確かに、必要なものを戦略的に読むことは、専門性の向上の為には欠かせません。しかし、読書が自己目的化してしまっても面白くありません。非戦略的な読書、必要に迫られない読書によってこそ、多くを得ることができるのかもしれない。

都城に移ってのちは、贅沢な読書時間にどっぷり浸る毎日です。国語科教員としては甚だ不届きな物言いかもしれませんが、いわゆる「ジャケ買い」「ジャケ借り」なるものを楽しんでいます。表紙が綺麗なものを借りよう、6月なので「6月」や「雨」がタイトルに含まれるものを選ぶ、といった具合に。図書館で無造作に選んだ本を、コーヒー片手に読みすすめる日々。隣の研究室にお邪魔し、時を忘れて哲学の議論。そんな贅沢な時間を過ごしています。みなさんもお勧めの本をぜひ紹介してください。研究室でお待ちしています。

最後になりましたが、本の紹介をしたいと思います。数冊に絞ることは容易なことではありません。みなさんのように可愛い高校生だった私が背伸びをして「朝読」した本、そして本校への着任を控えた3月に「ジャケ借り」をした本を紹介して、筆を擱きます。

推薦図書

武者小路実篤『友情』（岩波文庫）

ウバルトE-3 著／河島英昭 訳『薔薇の名前』

（上・下）（東京創元社）

恩田陸『三月は深き紅の淵を』（講談社文庫）

本との出会い

一般科目（理科） 中島 里紗

4月より一般科目（理科）に着任いたしました中島里紗と申します。1年生の化学を担当しています。私は幼少期から休み時間は外で遊ばず自分の席で読書をするような子供でした。たまに読書嫌いな人で、本を読むのが義務だと思っている人がいますが、読みたくなければ読む必要はないと私自身は思います。私も読んでいてつまらない本は最後まで読みません。その代りに次の本を読み始めます。一人一人、本にも好みがあり、例えば私の母は推理小説しか読みません。推理小説をめちゃくちゃ読むんです。私はファンタジーや人間の心情を描写したような物語が好きなので、残念ながら母と本の貸し借りをすることはありません。本が好きな人は、運よく早くから自分の好きな本に出会えた人なのではないでしょうか？

私は、万城目学さん、西加奈子さん、坂木司さん、森見登美彦さん、辻村深月さん、江國香織さん、また私の地元・高知県出身の有川浩さんなど、まだまだここにはあげられないですが、今までに多く作家さんと出会いました。都城高専の図書館は今年改修のため学生の皆さんは不便な思いをすることだと思いますが、この機会に地域の図書館に足を運んでみたらいかがでしょうか。特にあんなに素敵な市立図書館、なかなか見たことないです。学校からは少し遠いですが、きっと気になる本と出会えることだと思います。

■県庁おもてなし課 有川浩 著

2009年の9月から高知新聞で連載され、後に書籍化されたこちら。内容は高知県庁で発足した「おもてなし課」のメンバーが高知を観光地としてPRするために奮闘する物語です。驚くのがなんと、本作をきっかけに高知県庁に「おもてなし課」が本当にできてしまいました！「図書館戦争」や「塩の街」「フリーター、家を買う」などで有川浩さんを知っていた人もこの作品は読んだことがないのでは？自身の作品には必ずと言っていいほど高知の地名や高知の特産品を入れてくる有川浩さんの高知愛が本作では爆発しています。

■美女と竹林 森見登美彦 著

森見登美彦さんは京都大学出身ということもあり、作品は京都を題材にした物語が多いです。読むだけで「森見ワールドだな～」と思うような独特な言葉遣いと世界観に、ハマる人はとことんハマります（ハマらない人は1冊も読めないかもしれません）「美女と竹林」はそんな森見さんが書いた唯一のエッセイです。内容は、エッセイを書いてくれと頼まれた森見さんが「では竹を刈る話を書こうじゃないか」と意気込むものの、仕事は忙しいし、竹を刈るのは思ったより大変だし、体は筋肉痛になるし…。だんだん妄想だけで竹を刈るようになります。読んでいる読者もどこまでが実話でどこからが妄想なのか分からなくなります。実は竹林にさえ行ってないのでは...？と疑う始末です。みなさんはどこからが森見さんの妄想だと思ったのか、もし読んだ人がいたら教えてほしいです。

自分を形作る読書・生きるための指南書

機械工学科 松本 良雄

初めまして、本年度から機械工学科にて助教を勤めております松本良雄と申します。

最近の研究の論文や雑誌の記事、ニュース、メールなどを読む以外にある程度まとまった長い文章を読む機会があまりない自分にとって、好きな書物を読む、読書のための時間を設けることは非常に貴重で贅沢な時間だという印象があります。

読書の対象は年齢が上がるにつれ変わるものです。小さい頃は「はらぺこあおむし」や「だるまちゃん」、「僕は王様」シリーズを読んでいた自分も、年を重ねるとともに色々なことに悩んだり迷ったりして、そういう時に自分を指南してくれる本と出会い、その後の自分を形成してきたと考えると、読書が人生に与える影響の大きさを改めて感じます。

人間が書くものなので、全ての書物が客観的な事実を表しているわけではないことは言うまでもない話ですが、書物に書いてある考え全部を真に受けるのではなく、読んだ上で自分なりに色々考えて糧にしていくことが、読者にとって意味のある読書の仕方だと自分は思います。「こういった考え方もあるのか」というように思考のスパイスにしていくことで、それが自分本来の気質や考え方と合わさって、結果自分の人格形成や人生に大きな影響を与えるものだとして解釈しています。もちろん考え方だけでなく、純然たる事実である知識を取り入れることも生きていくためには必要ですし、自分の専門を極めるには学問のための書物を読むことも重要です。小説や随筆などの文学を読むことも、自分の感性を磨くことに繋がります。このように興味を持った書物をたくさん読むことで、自分に合うものを取捨選択していくと、誰にも恥じる事の無い自信を持った「自分」を形作ることができると考えています。

読書により思考、趣味、知識を取り入れ、人格形成を行い、それらを計画や行動に移すなど実践することで、周囲からの評価も得られます。そのように書物から取り入れた情報を自分の人生設計に役立ててこそ読書の最終的な目標が達成されるのではないのでしょうか。ここに書きました文章もあくまで個人の考えなので、参考程度に読んでいただけたらと思います。ぜひ、時間のある時にできる限りたくさん読書をして、自分の人生を変える本と出会ってください。それでは。

推薦図書

- ・「対象喪失の乗り越え方」 加藤 諦三 著 (大和書房)

人生における様々な人、モノ、事象との離別を乗り越え、どう自分の未来を明るく幸せに生きるかをアドバイスした本です。いかに過去に執着しないかが重要かを説いています。心が非常に弱っているときに読むことはあまりオススメできません！

- ・「すれ違ってしまった相手との心の修復法」 中山 和義 著 (PHP研究所)

身近な人との気持ちのすれ違いがなぜ起こるのか、すれ違ってしまったときの関係を修復するにはどう心を通わせればよいのか、自分の気持ちの伝え方、相手の気持ちの聞き方を紹介している本です。大事な人との関係を深めるのに一読の価値あります。

ブックハンティング

ブックハンティングを、6月22日（土曜日）に実施しました。

このイベントの目的は、学生のニーズに直接即した書籍を購入して、本校図書館の学生用図書の新刊の充実を図ること、併せて学生図書委員が多くの新刊の書籍に触れることを介して、書籍に対する知識・見聞を深めることを目的としています。今年度は3年ぶりに宮崎市内の『蔦屋書店高千穂通店』にご協力頂きました。当日は、20名の図書委員が参加し、クラスで募ったリクエスト図書のリストを確認しながら、図書を実際に手に取り約2時間かけて選書しました。リストにある書籍が見つからなかった人は予算内で好きな本を選んでいました。

今回選定された98冊が図書館の新着図書コーナーの『ブックハンティング』のコーナーに展示されています。図書委員が書いたレビューも作成する予定です。欲しかった本があるかもしれません。是非図書館に足を運んでご覧ください。

(選書した図書を前にして)



「無理なく円滑な医療機器産業への仕組み」 IM 福元 菜瑠

医工連携が抱えてきた挑戦と解決がわかりやすく書かれた一冊です。また、すっきりとしている図解で市場の構造や仕組みなど、複雑になっているものも、理解しやすくなっています。この本は、実例が多く示されており、これからの医療機器開発に役立つ事が多く書かれていると思っています。まったく、医療機器開発に興味がない人もいます。しかし、そんな人もこの本をとって読んでみてください。そして、少しでも多くの方が、医療機器開発に興味をもってくれると嬉しいです。機械科では、車などのほうが目立つと思いますが、医療機器にも関心をもってくれる人が増えると良いなと思います。

「シャーデンフロイデ」 IC 池袋 優斗

あなたのクラスにも、こんな人いませんか？勉強も運動もできて、イケメンで、性格もよくて、陽キャの中心的存在で、リア充で…。もし、その人がなにかしらのミスで留年の危機になったとき、あなたは何を思いますか？「ざまあみろ」、「日頃の行いが悪いんだよww」、「そのまま落ちてしまえ」などなど思うかもしれません。これらの「メシウマ」や「他人の不幸は蜜の味」という感情は実は愛情ホルモンの一種である「オキシトシン」の仕業だったのです。現代に生きる人間の抱える病理の象徴「シャーデンフロイデ」の正体を解き明かします。

「神さまのいる書店『まほろばの夏』」 IA 坂元 彩花

私はまず本のタイトルに惹かれて手に取ってみました。読んでみると、独特な世界観で読み進めていくうちにどんどんこの本が好きになりました。この本のあらすじは、題名にもあるとおり、神様のいる書店をメインにした話です。毎日のように図書館に通っている本が大好きな主人公・ヨミが、「本に恩返しをしたい…」という気持ちから、不思議な書店「まほろば屋書店」で夏休みのバイトを始めようというストーリーです。この書店では、命が宿っている〈まほろ本〉を取り扱っていて、この本は本の中のキャラクターが実際に見える上、本体が破れると人間と同じように体が傷ついてしまうという不思議な特徴があります。私はこの本を読んで「まほろば屋書店」が実際にあったら毎日通うようになるだろうと思いました。もしも、〈まほろ本〉がこの世にあったとしたら本を読むときも大切に傷つけないようによんだり、本棚の奥深くに眠っているような本も読みかえしたりすると思います。最近はスマホが発達して本を読む機会が少なくなっているかと思っています。神様のいる書店を読んで本を大切にすることが多くなって欲しいと思いました。特にオススメしたい場合は主人公・ヨミが自分の居場所探しに困っている中、多くのまほろ本に会う場面です。ヨミは不器用ながらもそれぞれの本に向き合い、自分自身も成長していくところがほっこりします。言葉の表現がストレートで、とても読みやすい本だと思います。本を読むのが苦手な人も本が大好きな人もぜひこの本を読んでみてください。続編もあります。

「ただ一冊を、それを求める二人の物語」 2E 喜瀬 駆

デビュー作「空白メソッド」が賞を受賞しヒットしたもののそれ以降は鳴かず飛ばずで、アルバイトで食いつないでいる作家・豊隆と、大手出版会社の編集者・俊太郎は小学生のころの幼なじみだった。二人が出会ったとき、物語は動き出す。二人の書く小説は、売ろうとしても出版業界に吹く冷たい逆風によって何度も危機に陥る。しかし、俊太郎は豊隆の才能を信じ、その逆境に何度だって立ち向かう。豊隆も俊太郎の「必ず売り出してやる」という言葉を信じ、書き続ける。1冊にかける二人の熱い思いは必ず胸を打つ。必見だ。

「我が心は石にあらず」 2C 冨永 桃加

高橋和己、という小説家の名を耳にしたことはありますか？ 39歳で夭逝した、天才中国文学者である彼は、その10年という短い創作期間で、多くの名作を生みだしました。この作品、「我が心は石にあらず」は、人間社会での精神的な重圧、希望、優劣、そして不倫という醜い事गरら、読書の心を良い方向にも悪い方向にも引っ張りながら切り拓いていく、高橋文学の金字塔とも言える作品です。重厚で難解な言い回しを用いて描かれており、420ページ程とは思えない程の読後感に襲われます。大人の世界や人間の醜い部分をのぞきたい方にピッタリな作品です。

「こっそりこっそりまちをかえよう」 2A 前田 刻愛

この書籍をおすすめする理由は、まず、文字がギチギチに詰まっておらず、建築、身の回りの環境の事について、内容が専門用語が適切な部分に書かれていて、一般の方にも読みやすいからです。文字だけでは想像できない、いずらい事柄も図やグラフ、絵が沢山描かれているので、視覚的にも、内容が更につかみやすくなっています。例えば、目次からなら「日本のビルをぜんぶ横に倒して1階建てのだけの世界を作ろう」や、「オフィス街を歩きながら、家を建てるならどこだろう、どんな家を建てようか」など、素朴な疑問や、考えても見ない事だったり逆に当たり前な事なのに疑問が出てきたりします。50の疑問を本文を通して解決していく本です。一緒に著者と考えながら読むのもよし、ただ、絵本のように、絵のみを楽しんでもよし、アイデアを作るのもよし、様々な読み方が出来るので、おすすめにさせていただきます。

「海に見える街」 3M 久木野 隼人

「恋愛」といえば、中学生の華やかな恋。高校生の甘酸っぱい恋など学生の青春であると言う人が多いでしょう。学校を卒業し、社会人として生活する人には無縁のものであると考える人もいるかも知れません。しかし、きまったサイクルを過ごす日々の中にも「恋愛」というものは存在している。そう感じさせてくれるのがこの作品だと思います。図書館の司書として働く本田と日野、児童館に勤める松田、契約社員として働くことになった春香を中心に展開されるこの作品は筆者の繊細な心理描写によって描かれる魔法のように特別な恋愛小説です。

「ヘンな論文」 3E 日高 蒼介

僕がおすすめする本は、サンキュータツオのヘンな論文です。この本の内容は、一見すると題名や内容も複雑でよく分からないのが多い印象を持つ論文の中から、著者が収集した正に内容が変な論文を紹介、解説している本です。

ですます体でない一橋大学の非常勤講師、漫才師米粒写経としても活動する芸人でもある著者の口語による突っ込みや、普段気にしないような現象を全力で研究する学者の熱意や姿勢が伝わってくる本です。

「ミス・マープルと13の謎」 3C 中坂 元

唐突だが皆さんはナゾ解きは好きだろうか？世の中には事件や事象といった様々なナゾがある。

その中でも、“未解決の謎”という言葉に好奇心をそそられる、そんな人にオススメするのが、アガサ・クリスティによる『ミス・マープルと13の謎』である。この物語は毎週火曜日の夜に集まった人たちのうち一人が謎を提示し、それに対する各自の推理を他の人たちが披露するという流れで進む。いわば短編集のような形であるため、作者の他作品に見られる不気味な雰囲気は控えめである。しかし各話中では読者の隙を突くような謎、単純に見えて実は複雑な謎などが提示されており、短いながらも読みごたえのある作品となっている。ところで推理小説といえば、名探偵が鮮やかな推理で事件を解決するのがセオリーだが、皆さんはどんな探偵を思い浮かべるだろうか？鹿撃ち帽とパイプが素敵なあの人？見た目は子供、頭脳は大人なあの人？驚くべきことに、本作の主人公である名探偵は、ミス・マープルという一見どこにでもいるごく普通のおばあちゃんである。しかし、本作を語る上で欠かせないのは彼女の魅力、とりわけその独特な推理法にある。齢を重ねた田舎暮らしのミス・マープルならではの少々変わった推理法は…読者諸君のお楽しみとしよう。総括として、本書は短い物語ではあるものの、謎解きの楽しみを残しつつ、重苦しい雰囲気は和らいでいるため比較的読みやすい本といえよう。ミステリー好きにも、入門者にもオススメの一冊である。

「138億年宇宙の旅」 4M 岩村 輝正

宇宙と聞いて、私にとって未知の世界であった。宇宙に予備知識がなくてもこの本は読めた。読み進めていけばいくほど新たな宇宙に関することが解き明かされていく。しかし、技術が発展した現代でも宇宙の謎は、ほとんど解明されていない。まさに、宇宙を掻き立てられる起点となるような本であった。これまで、読んできた本の中で読みやすく詳しい情報が載っている本でとても読みやすかった。宇宙や未知であることに興味がある人はこの本を読んでもらいたいことをお勧めしたい。

「伝説のハッカーが教える 超監視社会で身を守る方法」 4E 野口 芹菜

あなたは「プライバシー」は取るに足らない問題だと考えますか？隠すことは何もないと思っている人やプライバシーの保護が必要なのは犯罪者だけだと思っている人、暗号なんてテロリストしか使わないと思っている人、自分の権利を守る必要がないと思っている人たちにこそ読んでもらいたい本です。隠すことは何もなくても守らなきゃいけないものを守るために、この手引き書を活用してください。

「**切本**」 4C 坂元 水里

この本は、太宰治、夏目漱石、星新一など90人書き手による「締め切り」にまつわる日記や手紙、エッセイ、対談などを集めたものです。「まだ睡眠をとってもかまわぬという時に、かえって眠れない。ところが、忙しい時には、眠い。」

(p66) など日々レポートや課題の締め切りに追われている皆さんには共感できる部分がたくさんあると思います。ぜひ読んでみてください。

「**悪いものが来ませんように**」 5M 福島 聖

育児に対する不安、社会、家族になじめず子供のころから最も親しかった紗英を心のよりどころにしていた奈津子と不妊と夫の不倫に悩み、同じく奈津子に依存していた紗英の2人の主人公。その2人の関係が恐ろしい事件を引き起こします。事件から間もなく「犯人」は逮捕されるのですが、この事件が起きた経緯やその後が分かっていく中で、私は親密になりすぎた友情の不気味さや虚しさを感じました。「悪いものが来ませんように」は冒頭奈津子がおまじないとして言う言葉ですが、タイトルにもなっているこの言葉は、本当は誰に向けたものなのか。最後まで読んだら、もう一度初めから読みたくなる心理サスペンスになっています。是非読んでみてください。

「**アリエナイ理科ノ大事典**」 5C 山田 涼夏

「科学実験なんて設備が無いとできないよ」「科学って日常生活ではあんまり使わないよね」なんて思っていないですか？この本には家でもできる科学実験のやり方から某アニメでおなじみレールガンの作り方で様々な科学に関するエッセイがのっています。少し過激で危ない科学の世界にどっぷりとはまれること間違いなし！

※この本には少々過激な実験等も含まれます。実践は安全に留意して行いましょう。それでは良いサイエンスライフを！

「**ソラリス**」 5A 小楠 梨菜

地球からはるか遠く離れたところにある惑星「ソラリス」。そこは、ふたつの太陽とそれに照らされ、生きているかのように蠢く赤い海でできている。ソラリスに目を向けた人間はソラリスが何であるかを考察したり、実際に実験を行ったりと様々なことに取り組んだ。そしてソラリスの海が知能を持つ生物なのか、ただの重力などの働きで生きているように見えるだけなのか派閥が生まれるくらいであった。百年以上議論が交わされ、人間のソラリスに対する興味が薄れかけた中で、三人の人間がソラリスへ旅立った。しばらくして一人が追加で旅立つことになる。そこでは現実では理解し難いことがいくつかが目の当たりにする。それは、人間の脳の奥底に根強く残っている人物がその人の目の前に出現したり、ソラリスの海で大規模な活動が見られたりなどである。この小説のほかに、「ソラリスの陽のもとに」という小説があるが、こちらは原作をロシア語で訳した後に日本語に訳したもので、今回レビューした「ソラリス」とは内容が異なる。「ソラリス」は原作から直訳したため、国ごとに公開できない内容を省くことなく書かれている。そのため、著者の考えや狙いが見えるかもしれない。この内容は読む人によって感じ方や考え方が変わってくるようで、恋愛主体であったり、精神論のように感じたりと様々な解釈が生まれる。映画にもなっているが、それは恋愛主体の内容であるため、できれば小説「ソラリス」から手に取ってもらいたい。そこから自分がどのように感じたか、この小説から何を得られたかをぜひ考えてほしい。

ブックハンティングで購入した図書一覧 (一部)

題名	著者	出版社
ゼロからはじめる！統計学見るだけノート	永野 裕之	宝島社
悪いものが、来ませんように	芦沢 央	KADOKA
季節風 冬	重松 清	文藝春秋
季節風 秋	重松 清	文藝春秋
季節風 夏	重松 清	文藝春秋
季節風 春	重松 清	文藝春秋
我が心は石にあらず	高橋 和巳	河出書房新社
ミス・マーブルと13の謎	アガサ・クリステイ	東京創元社
世界の終わりと嘘つき少女	小野崎 まち	ポプラ社
びっくり館の殺人	綾辻 行人	講談社
青の数学	王城 夕紀	新潮社
きつねのはなし	森見 登美彦	新潮社
ヒトラーとは何か	セバスチャン・ハフナー	草思社
サクラ咲く	辻村 深月	光文社
悪の教典	貴志 祐介	文藝春秋
ラメルノエリキサ	渡辺 優	集英社
孤独の価値	森 博嗣	幻冬舎
平和主義とは何か：政治哲学で考える戦争と平和	松元 雅和	中央公論新社
シャープデンフロイデ：他人を引きずり下ろす快感	中野 信子	幻冬舎
AIにできること、できないこと：ビジネス社会を生き抜くための4つの力	藤本 浩司, 柴原 一友	日本評論社
要点早わかり基本情報技術者ポケット攻略本	福嶋 宏訓	技術評論社
ざんねんないきもの事典：おもしろい!進化のふしぎ	下間 文恵	高橋書店
入門材料力学：これならわかる：図解でやさしい	有光 隆	技術評論社
犬も食わない	尾崎 世界観	新潮社
基礎から学ぶ電気回路計算	永田 博義	オーム社
自由なサメと人間たちの夢	渡辺 優	集英社
高校事変	松岡 圭祐	KADOKAWA
本を読む人だけが手にするもの	藤原 和博	日本実業出版社
入門材料力学：これならわかる：図解でやさしい	有光 隆	技術評論社
犬も食わない	尾崎 世界観	新潮社
基礎から学ぶ電気回路計算	永田 博義	オーム社
自由なサメと人間たちの夢	渡辺 優	集英社
高校事変	松岡 圭祐	KADOKAWA

委員長挨拶

4年機械工学科 岩村輝正

私は、機械工学科 4年岩村輝正です。これまで本の紹介や深山書評などの活動を通して本を読むことは、1つの経験だと感じました。感情移入したり、本を読んで影響されることによって人生が微々たる変化をもたらしていると思います。感じ方は人それぞれですから、なかには、大きい変化をもたらされる人もいるでしょう。

本を読まずに変わらない毎日を過ごすよりも、少しの楽しみとして図書館へ足を運んでもらえたらと思います。そのためにも、学生がより本に興味を湧くような図書館づくりを目指したいと思います。

お知らせ

令和元年度 仮設図書館1月カレンダー【青部分は休館日です。】

令和2年1月(予定)

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- ※ 仮設図書館(選択棟第1教室)は、**令和2年1月31日まで開館しています。**
 - ※ 仮設図書館(選択棟第1教室)は、**平日のみ9時～17時まで開館。(貸出しはできません。)**
 - ※ 新図書館は、**令和2年4月1日(水)リニューアルオープン**予定です。
-

編集後記

寄稿されてくださった、関先生、中島先生、松本先生、ありがとうございました。

今回、No85の図書館だよりを作るにあたって、図書館の改修工事中のなかでの図書館だよりの電子化というこれまでにないチャレンジの中、4年図書委員や図書事務員の方の協力によって素晴らしい図書館だよりを作ることができました。初めての図書館だより作り、電子化への挑戦でしたがシンプルかつ読みやすく仕上がったと思います。

